

城崎道路技術検討会（第1回）の概要

1. 日 時：令和5年1月18日(水) 13:30～15:00

2. 場 所：豊岡河川国道事務所 4階 会議室

3. 出席者：

<委員>

【会長】 沖村 孝 神戸大学 名誉教授
森川 英典 神戸大学大学院 工学研究科 教授
芥川 真一 神戸大学大学院 工学研究科 教授
草野 真一 兵庫県 土木部 道路企画課長
南 知之 国土交通省 近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所長

<オブザーバー>

鎗水 正和 兵庫県 但馬県民局 豊岡土木事務所長

4. 議 事：

- (1) 規約説明、会長選出
- (2) 技術検討会の概要
- (3) 技術的課題への対応について
- (4) 現地調査計画
- (5) 今後の進め方（予定）

5. 議事内容（主な意見）：

- 規約が承認され、会長に沖村名誉教授が選任された。
- 技術的課題への対応について、以下の意見をいただいた。

①閃緑岩岩脈が貫入した地質構造

- ・断層破碎帯や湧水発生の形態には様々なケースがあるため、トンネルのリスクマネジメントにおいては、細心の注意を払う必要がある。
- ・城崎道路は、噴火口（二見山）が近く、火道・貫入岩が存在し、かなり複雑な地質構造になっている可能性があることに留意して調査する必要がある。
- ・複数調査の組合せについては、既存の手法だけでなく、衛星情報（新技術）を活用するなど、新しい手法も含めた検討をお願いしたい。
- ・特異な地質条件を踏まえた、道路の維持管理での留意点はあるか？
→現状では未整理であるため、間に合えば次回報告させて頂く。（事務局）

②二見水源地への近接

- ・水源への影響に対して、どの時点で地元合意の議論を進めていく考えなのかを教えて欲しい。
 - 当該区間における対応は、具体的には決まっていないが、一般論としては解析等で施工の影響を予測した結果をもとに地域へ説明し事業を実施している。(事務局)
- ・香住 IC～余部 IC 間のトンネルでは、調査を実施した上で、工事を実施したが、用水利用に支障を来し、地域との合意形成に苦労したという事例があるので、できるだけ事前に情報を収集し、地域へ説明していく必要がある。

③河川内における厚い軟弱地盤、⑤地域固有の貴重な自然環境

- ・橋梁に関しては、城崎大橋にて工法変更が発生していることを踏まえると、城崎大橋よりも詳細な調査を行い、設計に反映させる必要がある。
- ・城崎大橋も工法変更に伴い、工事の騒音が増大したという問題もあったため、城崎道路でも自然環境やコウノトリの環境に悪影響を及ぼさない工法を検討する必要がある。
- ・総合評価での企業提案事項ではなく、事業者で最適な構造・施工方法をあらかじめ検討する必要がある。

○現地調査計画、今後の進め方について、了承いただいた。

－以上－